

『甲陽軍鑑』品第五十の一部

万治二(1659)年刊、安田十兵衛開版の「甲陽軍鑑」(『甲斐志料集成 9』所収)。

「甲陽軍鑑」は長篠の戦い前から高坂弾正らによつて書き継がれたことになっている。初め写本として流布、明暦二(1656)年に村上平樂寺から最初の版本。万治二(1659)年の安田による開版はこれに次ぎ、以降いくつかの版がある。

本文の日付に元龜四(1573)年九月五日(元記四年七月に天正に改元されている)、武田勝頼が続(継)目の朱印状を戸隠等に下すこととある。

一天正元年五月より其年中に諏訪・富士・戸隠を始五ヶ國の諸社諸寺へ勝頼公續き目の御朱印出る也、右の内諏訪・富士・戸隠三社の事、是に書す残りは事多しかくに及ばず

定

從_二法性院殿_一被_二渡下_一候御判形之旨、自今以後彌
と不_レ可_二相違_一者也、仍如_レ件

元龜四癸酉年九月五日

註 『甲斐志料集成 9』(DOI 10.11501/1240963)

は国会図書館デジタルコレクションにあり、該当個所は256コマ目。